

科目名	エアポートサービス論	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			国際学科	□ 必修	■ 選択
英文表記	Airport Service	開講年次	□ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年		
			開講期間	■ 前期 □ 後期 □ 通年 □ 集中	
ふりがな	よこた けいざぶろう	実務家教員担当科目	○	修得単位	2単位
担当者名	横田 恵三郎	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	空港は、「観光立国」戦略をインフラ基盤として支え 2030年・6000万人の訪日外客目標の受け皿としてその役割の重要性は益々増している。空港が担っている様々なサービス（機能）についてその内容と意義を理解することが出来る。				
到達目標	空港における仕事（機能）を理解し、関心を深め、将来、航空、空港、その他観光関連企業に進むことを想定している学生は必要な基本的な知識が身につく。				
授業概要	空港ではいったいどのようなサービスが展開されているか。一般的には航空会社による搭乗受付業務は広く認知されているが、現実には旅客、運航、整備、貨物、機内食、燃料、保安、搭降載、管制、税関、出入国管理、検疫、情報提供・案内等多くの機能が有機的に連携を図りながら、安全を第一に日々サービスを提供している。各々の機能について画像、映像を活用しながら正しく理解するとともに、わが国の空港の将来像を考える。				
授業計画					
第1回	ガイダンス エアラインサービスとは				
第2回	空を飛ぶ夢を追った人々				
第3回	航空輸送の歴史と発展①				
第4回	航空輸送の歴史と発展②				
第5回	国際旅客輸送の現状				
第6回	日本の航空輸送の変遷、現状				
第7回	日本の空港整備の経緯と現状				
第8回	空港サービス①（旅客）				
第9回	空港サービス②（オペレーション）				
第10回	空港サービス③（グランドハンドリング）				
第11回	空港サービス④（その他のグランドハンドリング）				
第12回	航空会社以外によるエアポートサービス①（航空管制）				
第13回	航空会社以外によるエアポートサービス②（保安検査 CIQ）				
第14回	航空会社空港スタッフによる講話				
第15回	まとめ				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	復習を行なうと共に空港をはじめ航空関連事業の報道や関連する情報の収集に努めてください(1.5時間程度)				
履修条件 受講のルール	将来、航空会社、空港会社など航空関連企業・機関に進むことを選択肢の一つとしている学生は履修することが望ましい。				
テキスト	毎回、関連する資料を配布します。				
参考文献・資料	授業中に紹介します。				
成績評価の方法	定期試験 50%、取組姿勢・授業態度 50%として総合評価します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。				

オフィスアワー	月曜日ならびに火曜日：2～3限(10：40-12：10、13：00-14：30)
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	大学卒業以来35年間日本の大手航空会社に勤務し空港での勤務もありました。その後4年間、台湾の航空会社にも勤務しておりました。空港における安全への拘りと組織間の連携プレーについては特に伝えたいと思います。
学生へのメッセージ	空港には様々な機能(仕事)があつて、連携しながら日々の安全・安心で快適な運航を支えています。この授業を履修することにより、空港の仕事に興味を湧いてくるものと期待しています。